（自開自修列）（定價金三錢）

時事新報

第千二百八十一號
明治十九年五月廿一日
舊丙戌四月十八日（金曜日）
（辛巳）
日出午前四時五十二分
月入午後七時一分
滿潮午前七時三十六分
干潮午前十時四十八分
（西暦一千八百八十六年）

時事報報

中山道鉄道工事の遲ひと見て信州人ゐ告ぐ

在東京　信濃の一書生

中山道鉄道は其工事遲々てさしもに嶮路の聞ゐ高崎より上野高崎よりの線路と相連り朝まだきに信州を出て東京に於て所要の事を濟まし夕方は悠々と家ゑ歸る迅速の時間なる迅早や程遠からぬ事と存候

然るに是れまで信州は山又山に奥にありて他國との交通頗る悪しく四周十箇國に境を接まるがら何ぞの輩人出ずるにも嶮坂嶮路に障害之れあきい無く全國百萬の人民中信州の山中ゐ生れて山中ゐ死し生涯一歩も金華の地と唱さざる者さへ多き其上に地勢海に遠くして船舶の方即ち北海濱に達せるゑも東京の方即ち南海濱ゐ至るにも數十里の山川と隔つをば魚類の供給至て乏しく國人の口ゑ上るものい重もに鹽引と干物のみ野菜とては僅かゑ地ゑ飼ふたる鯉と谷川に育ちたる鰻とに過ぎずと申す程の次第にて他國の人い信州人と聞ゐたる人の智識才能と問はゞ一概ゑ田舍者なりと応得るまじく若し之は小生等の如く府下ゐ留學する者は少まの鄙猥と雑話の際ゑ足下は故郷に在る時鯛の拋燒飯の鯛と味ふたることゐるやゐまやなゞ嘲弄せらるゝことさへ毎度ゐる程なりしと雖も今後は全く此等の嘲て笑れて開明の風化に後るゝ憂もなく此れまで之を恥ゐ仕合せ幸福と受くることを得べけれゐ他國の人ゑ無下に田舍者視せらるゝみともなく一國繁昌の基礎として空しからざる事ゐ候はん去を也此の鉄道は信州人民に取りて恰ゐも文明開化の父、國富民安の母なるゝ様と言きものゑて百萬の人民今日鉄道敷設の成就に仰ひこと大旱の雲霓も曾ゐらず一日も早く此の慈父等の恩ゑ拾せんとゝ喜び樂み居るとの事い至極れ道理ゑして他郷に寄留する小生等も亦た同様の事ゐ候

然し乍小生は信州百萬の兄弟と其害を同うせると共ゑ又其事ゆ等めに甚ざ心配せる虚之れなゐに候いず其心配ゐ也とて本ならず今日の歳に於て世れ學者論客は勿論等て其他書鉄道の文明開化に要用なる所以と國富民安に資する事ゐるとのみを說きて此鉄道の性質と其影響を世人民に為へて生ずる所の結論とは如何ゐるもれゐ人ゐるもの稀れなる故ゐ百萬の兄弟は只鉄道の文明ゐ關する事ゐ聞きて其の事ゑる慈悲心のみを慕ふて[illegible]ゐるとは至して其文明進む可く勢せずまて[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ